

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和2年2月13日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 17名
地域アンケート回答数	4名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3890200334
事業所名 (ユニット名)	グループホームつどい 2階
記入者(管理者) 氏名	村上 東洋子
自己評価作成日	令和1年12月24日

<p>【事業所理念】 一人ひとりの今までの歩みを大切にし 一人ひとりの「今」「この時」に寄り添います。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ① 利用者個別のモニタリング表を新規に作成する。各介護職員が、その月の担当利用者のモニタリングを月前半・後半2回記載、全職員が周知、共有する。計画作成者を中心に意見をまとめ、必要時に計画変更を行う。また3～4ヶ月毎の介護計画更新に反映して、ケアの向上を図る。①その結果。全職員がケアプランを読み実践の効果を評価として、記録し、次のケアプランにつなげることが出来た。②月初に請求書を送付するときに、つどいより、運営推進会議議事録を同封して報告。つどいよりには職員の移動等のニュースも記載して、ご家族にも周知していただく。②その結果。職員の移動のニュースが分かりやすくなったと、ご家族から好評だった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 市内中心部にある事業所は交差点の角に位置している。大きな窓から日が差し込みリビングは、冬場でも天気の良い日にはかなり暖かく、ソファでうとうとする利用者も多い。リビングの窓際には季節ごとにクリスマスツリーやお雛様を飾り、利用者だけでなく通行人の目も楽しませている。母体の医療機関が移転した跡地に事業所を新設してから5年以上経過しているが、掃除や管理が行き届き、衛生的で快適な空間になっている。利用者の居室には、日当たりを考慮し、全室南側に窓がつけられている。職員の離職も少なく、利用者にとって馴染みのある職員が、利用者一人ひとりに丁寧に穏やかに声かけをしている様子が印象的な事業所である。</p>
---	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>◎ 職員と利用者の会話を大切に、傾聴に努めている。</p> <p>◎ 本人にとって、一番幸せな状態はどうかと検討している。</p> <p>◎ 家族、知人の来訪時は必ず、ご本人の思いを話し合う。</p> <p>◎ 心身の情報シートを記録し、全職員が共有している。</p> <p>◎ 毎朝の朝会で本人の思いを共有、修正している。</p>	○	◎				代表者が方針に掲げている「とろとろに優しく」を職員全員が心がけ、職員は利用者のペースに合わせてゆっくりと話を聞き、何があっても利用者を受け入れる精神で利用者の希望の把握に努めている。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>◎ 入所時の詳細な聞き取りと、入所生活を始めて発見する。</p> <p>◎ 詳細な観察、利用者との交流から把握し、職員で情報共有を行っている。</p> <p>◎ 利用者との交流を通して把握している。</p> <p>○ 利用者との交流と語り家族の情報により、職員間で話し合い模索している。</p> <p>◎ 業務優先ではなく、利用者本位のケアを優先している。</p>		◎				入居時に利用者や家族、主治医等から、これまでの暮らし方を聞き取っている。職員は「その人の歩んできた道を知る」という思いで情報収集しており、琴や華道といった利用者の特技等を聞き出している。入居後の日々の支援の中で利用者から得られる新しい情報も多く、「私の姿と気持ちのシート」に追記している。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○ 朝会で、職員が情報提供し、本人の視点で検討している。</p> <p>○ 毎日の朝会、月一のミーティングにて検討している。</p> <p>○ ケアチェック表・ケアプランで課題を明らかにしている。</p>					○	職員一人ひとりが収集した情報や気づきは、朝会の申し送り時や月1回のミーティングで共有し、検討している。参加できない職員の意見は事前に確認している。

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人と会話して、思いや意向を反映するように努力している。	/	/	/	職員は利用者との会話を通して思いや意向を聞き取り、事例検討会で検討し、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	事例検討会にて今必要な事例をあげ、介護計画に反映。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	重度であっても、他利用者と同じ環境で、共に生活出来るように計画している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地域のボランティアによるレクや地方祭参加の協力の内容。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	目標、内容が共有できるように、個人生活記録に密着挿入。	/	/	◎	月2回モニタリングを実施しており、職員は利用者一人ひとりの介護計画の内容を十分把握できている。利用者の担当職員が、介護計画に沿ってケアが実践できたかどうか、1項目ごとに丁寧に記録している。利用者の暮らしの様子は、個人生活記録に記録している。職員の気づきやアイデアも個別に記録し、ミーティング等で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	各担当の利用者のケアの実践の結果を記録と評価を行い、全職員が共有し支援につなげている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個人生活記録に時系列で状況、話し言葉等記録。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別の心身の情報シートに、職員の気づきや工夫、アイデア等を記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3ヶ月～4ヶ月で定期的に見直しをしている。	/	/	◎	介護計画は3～4か月ごとに見直し、月2回モニタリングを実施している。利用者の状態に変化が生じた場合は、家族や職員等で話し合い、現状に即した計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	職員のモニタリング記録を参考に月中旬と月末をMDに現状確認を行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	家族等、職員で話し合い、現状に即した介護計画を作成。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎朝のショートミーティングで緊急案件を話し合っている。	/	/	◎	毎月職員会議を開催し、課題を解決している。緊急案件は、毎朝のミーティングで話し合っている。会議に参加できなかった職員は、議事録で内容を把握し、確認したことが分かるようサインしている。サインは後日管理者がチェックし、確認していない職員には声をかけている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	月1回の業務改善会議で業務連絡、意見交換、事例検討を全員が発言できるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	10日前に会議の通知を発表し、出欠確認。欠席者は事前に意見提出している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議記録を全員が把握し確認サインを取っている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	業務日誌、申し送りノートで共有している。	/	/	◎	職員は、出勤時に申し送りノートや業務日誌、家族連絡簿を確認し、情報を共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	出勤時に、生活記録・個人記録・申し送りノート・業務日誌・家族連絡簿を読み、全職員が把握出来るようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者が「その日したいこと」表現できない場合は、職員が誘導したり、推察している。	/	/	/	レクリエーションやお菓子バイキング等、職員は利用者が選択する機会を確保している。訪問調査日には、利用者のペースに合わせて選んでもらっている様子が窺えた。職員は利用者の興味のある話題を提供し、生き生きとした言動や表情を引き出している。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レクタイムでしたいこと、フロアで寛ぐ場所の選定、お菓子バイキング等自己決定をさせていただいている。	/	/	○		
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	職員は日々の生活の日課において働きかけ、誘導し、納得して暮らせるように、言動を工夫したり、職員間で話し合っ支援するよう努力している。	/	/	/		
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	利用者の今までの生活習慣を尊重し、利用者のペースを優先している。	/	/	/		
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者の興味を持っていること、輝いていた過去の話などを引き出して楽しく会話している。	/	/	◎		
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	利用者の反応をキャッチしたら、職員全員で共有している。	/	/	/		
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	否定語は使わない。傾聴と共感を学び、実践している。	/	○	○	◎	プライバシー保護等に関する研修を受ける機会が多く、職員が利用者として過ごしている様子からも職員の意識の高さが窺えた。入浴を拒否する利用者に対し、「声かけが強くなってしまったことがあった」といった職員の反省が聞かれたため、そのような場合には他の職員と交代したり、時間を空いて対応したりする等の工夫をしている。利用者の居室に入室する際には、職員はノックや声かけを行い、利用者の許可を得ている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	プライドを尊重し、さりげない介護を心がけている。	/	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	マンツーマンで入浴介助、排せつ介助を行っている。	/	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室はプライバシーの空間であることを配慮している。	/	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報保護について学習し、常に実践している。	/	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	生け花の生け方、畑の耕し方など、それぞれ得意な利用者に教えてもらって実践。必ず、「いい物ができて、ありがとう！」と感謝を表している。	/	/	/	利用者同士のトラブルは少なく、穏やかに過ごしている。職員との相性の悪さが感じられる場合には、対応する職員を交代する等配慮している。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合っ暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	それぞれが自分に出来る役割を持ち、役立つ喜びがあることを理解している。	/	/	/		
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	現在、利用者同士は和やかに家庭的な生活をしている。フロアでの座る位置を配慮して、話が弾む様になっている。	/	/	◎		
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	被害妄想によるトラブルが起きると、両方が傷つかないように、別々にお話しして、気持ち収まるように努力している。	/	/	/		

愛媛県グループホームつどい

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	情報共有している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご近所・知人らが面会に来られた時は、過去の楽しかった話などお聞きしている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	ドライブで普勤めていた会社を外から眺めたり、自宅周辺の馴染みの友人とお話する機会を努めて作っている。ご家族が積極的に馴染みの喫茶店や親戚に連れて行ってくださることもある。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	ゆっくり話せるように、居室にご案内、お茶の接待をしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	利用者の希望を優先することを心がけている。重度でも車いすで周辺散歩をしている。猛暑、インフルエンザ流行等で外出を控えることもある。	×	×	○	現在、季節的に感染症が心配で外出を控えているが、日頃から近くの公園やお寺に出かけている。事業所の1階にある庭では、トマトやサツマイモを栽培しており、庭へ畑の様子を見に行くことは利用者の日光浴や気分転換の機会にもなっている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	◎	地区の文化祭、弘法大師降誕祭に招待され、地方祭のお神輿を見物するなど、地域の協力で外出支援をしている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	リクライニング車いすで、周辺散歩、お花見など行っている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	地域や幼稚園からのお祭りのご招待を受けたり、季節の観梅、観桜、もみじ狩りなどご家族とともに楽しんでいる。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員全員が認知症サポーター養成講座を受講済、個々の周辺症状の原因と対策の話し合いをしている。				職員は見守ることを大切に支援しており、できることは利用者にしてもらう心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	認知症の特徴、高齢者リスクを学び理解し、生活リハビリで実践している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者個々の「できること、できそうなこと」を職員間で共有し誘導と見守りを行っている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	一人ひとりの今までの歩みを大切にし、持てる潜在能力で、野菜切り、豆むぎ、メダカのえさやり、畑耕しなどそれぞれができることを楽しんでいる。				利用者は、事業所の1階にある庭で収穫した野菜の下ごしらえをしたり、職員が企画したレクリエーションを楽しんだりしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	要介護4・5のご利用者も毎日、日中はフロアで他利用者・職員と交流し一緒に楽しく過ごしている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	◎	弘法大師生誕祭に招待をうけ、車いすや歩行介助で会堂に行き、稚児と交流し、甘茶をいただいた。地方祭では玄関まで出て、お神輿をお迎えた。				

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	朝は必ず、今日着るものを相談し、寝衣から普段着に着替え、必ず整容している。				利用者の衣服に乱れ等があれば、職員がさりげなくカバーしている。利用者全員が季節に応じた好みの服装をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	職員は、利用者の身だしなみに関心を持ち、褒めたり、助言をして、ご本人が満足する身だしなみを保つ支援をしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	ご家族と協力して、おしゃれな服装をしていただき、必ず、賞賛している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出用のジャケット、帽子、靴等ご家族に協力していただいて用意している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	常にきれいで居るように援助している。ご家族や見学者がいつ来られても、清潔で身だしなみが整っている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	定期的に出張美容に来てくれるのを、楽しみにしている。希望の店にご家族が同行する事もある。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	職員は毎朝髪型や服装の点検をし、整容に努めている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事前の手洗い、嚥下体操、献立発表、食事の見守りと介助、服薬援助、食後の口腔ケアまで確実にやっている。				1階にある小規模多機能型居宅介護の調理師が、季節を感じる食材を取り入れながら事業所の献立も考え、ユニットごとに職員が交代で調理している。利用者は、食材の買い物や調理の下ごしらえ等を職員と一緒にやっている。茶碗や湯呑み等は、利用者が持ち込んだものや事業所で用意したものを使用している。職員は利用者と一緒に食事を摂っておらず、利用者の横に座って声をかけながら介助を行っている。利用者が楽しく食事を摂れるよう、食前には口腔ケア体操を実施している。職員会議の中で食事にに関して話し合っているほか、定期的に栄養士に献立を確認してもらい、バランスの良い食事を提供している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	毎日ではないが、食材の買い物に同行、食材切り、皮むぎ、後片付け等、利用者とともにやっている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	味付け、盛り付けを相談すると、いきいきした表情になる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	肉が食べられない人、米飯が嫌いな人など、それぞれ代替えの献立を用意している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節のつくし、タケノコ、そらまめ、栗、土用うなぎ、いもたき等々の食材と、節気毎のお雑煮、巻き寿司、柏餅、おはぎ等々の献立を提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	本日の献立の盛り付けを見ていただいてから、食べやすいように工夫して、食べていただいている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	茶碗や湯飲み等は、ご本人様が好みの物をもってこられたり、希望によりの施設の物を使用したり、選択に任せている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	○	食事介助の必要な利用者や見守り声かけをサポートする職員は常時傍にいて一緒に食べる時間のゆとりはない。配膳前に職員は全員が味見をして、話題作りをしながら食事をさせて頂いている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	フロアの一角のオープンキッチンで調理しているので、においや調理の状況が見え、食事前から食事の話題が出ている。	○		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養士がバランスを考慮して、献立を作り、毎食の摂取量を観察記録して、管理している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事摂取困難な、利用者にはムース、ゼリー、とろみ等で工夫しジュース、栄養補助食品等で低栄養、脱水の防止をしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	月1回のミーティングで、話し合いをしている。献立表及び提供している料理の写真をやずらぎ会議事にメールし、ご意見を伺っている。バランスの取れた美味しい食事提供の方針。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	職員はキッチンに入る直前に薬用ソープで手洗いし、すり込み式手指消毒剤で消毒し、専用エプロンを着ける。食材の管理を厳重にし、直接口に入れる物はグローブ着用している。ご利用者の手洗い、手指消毒も厳重に行っている。				

愛媛県グループホームつどい

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	歯科医から口腔ケアの研修を受け、重要性を認識している。				利用者の居室と共用スペースの両方に洗面台があり、利用者の状態に合わせて職員が声かけを行い、誘導して口腔ケアをしている。口腔ケアを行う際には、職員が利用者の口腔内をチェックし、必要に応じて歯科受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時の観察によりある程度把握している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	法人全体で定期的に歯科医の研修を受け、口腔ケアの用具なども使用して支援している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夜間は義歯洗浄剤に浸け、毎朝洗浄して使用している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食前に口腔体操、食後に口腔ケアを励行している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	口腔内のトラブル、義歯の不具合を発見すると、主治医とご家族に連絡し、歯科受診をしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の自立を尊重して、自主的にトイレに行くことを基本としている。				必要に応じて職員会議で利用者の排泄ケアの検討をしており、日中は普通サイズのパッドをして過ごし、夜間のみ大き目サイズに変更する等の工夫もしている。紙パンツやパッド等は、衛生面から小まめに交換しているが、利用者や家族の費用負担が大きくなりすぎないように配慮している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	ミーティングで学習し、ほぼ理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個人の排尿排便について回数、性状等を詳細に記録して、共有している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	個々の状況によるが、失禁してしまったという意識を軽減するために、パット、紙パンツを使用して、安心してもらった場合もある。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	現在、排泄困難の事例はないが、事例が出たときに備え、意識を持ちたい。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	定期的に誘導の必要な人には、早めの声かけや誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	緊急時を除き、必要な場合はご本人、ご家族と話し合っており、どのような物を、どの時間帯に使うか相談して決めている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	個人の状況により、適時使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	野菜、食物繊維をとり入れた献立の工夫をしている。毎日のリハビリ体操、食前の口腔体操と一緒に腹部マッサージを、行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	最低週2回は入浴できるように、計画しているが、ご利用者のご気分、ご希望、体調により、融通、変更している。	◎		○	2階のユニットは一般浴槽、3階のユニットはリフトつき浴槽になっており、利用者の状態に合わせて使い分けしている。利用者が週2回入浴できるよう声かけを行い、入浴を拒否した場合には、時間や日を変えたり、対応する職員を交代したりしている。季節に応じて菖蒲湯や柚子湯等を楽しんでいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	一人ずつ見守りのもと、ゆっくり入浴している。季節により、ゆず湯、しょうぶ湯などバラエティーを楽しんでいる。自力で立ち上がれない方にはリフトでゆっくり湯に浸かっている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	安全のため、マンツーマンの介助で入浴しているが、本人が自力でできることはしていただき、できないことを援助している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声かけの工夫、時間の工夫をして、どのようにしたら入浴してくれるか、情報を共有している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴直前にバイタルチェックと体調を確認している。入浴中は全身の皮膚状態を観察、異状時は看護師に報告、対処している。入浴後の着衣、水分摂取まで担当している。				

愛媛県グループホームつどい

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	睡眠時の様子を生活記録に記載し、職員全員が共有している。	/	/	/	職員はできるだけ睡眠導入剤等に頼らないよう支援しており、現在、服用している利用者はいない。利用者が深夜に目覚めてしまった場合には、職員と一緒にお茶を飲んだり、軽食を食べたりしながら利用者のペースで過ごしてもらい、自然に眠りにつけるようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	基本的には生活リズムを作っているが、利用者によって、今までの長い生活リズムがあり、夜更かし、朝寝の習慣が身につけている人もいる。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	現在睡眠導入剤を服用している方はいない。不要不急な内服は避け、主治医と相談の上、状態観察しながら睡眠導入剤投与の選択もある。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個人個人の生活リズムに合わせ、お昼寝や休養の時間をとっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご本人のご希望に添えるように支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話中に傍で、本人の気持ちを、家族に伝えることもある。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	居室にて、施設の携帯電話を使っていたりしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご本人のご希望に従って対応している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	入所時の話し合いでご協力を依頼している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	基本的には個人的に所持していないが、自己管理を希望する利用者は所持している。職員はその意味を理解し共有している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	一定の金額を持っていただいて、コンビニ、スーパーマーケットにお買い物に行き、自力でお支払いできるよう援助している。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	近隣のコンビニ、スーパーマーケットに協力を依頼している。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご家族と相談の上、日常は所持せず、買い物の時には一定額を持ってもらっている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族と話し合い、利用者の状況に応じて、所持しない方が良いと判断されたり、所持することが精神的に安定する利用者は所持している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	基本的に預り金はなし。使用した分は請求書に記載。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ゆとりある程やかな生活に重きを置いているが、日舞のボランティアをCAテレビで紹介したり、左手のピアニストを法人にお招きして、演奏会に参加したり、サービスの多機能化を目指している。	◎	/	○ 利用者や家族の希望に沿えるよう、職員は柔軟に対応している。	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物横の道路際につどいファームという畑を作り、花木、実なる木、草花、野菜等を進行く人にも楽しんでいただき、近隣の方が、気軽に草花の苗や野菜を持参してくださっている。玄関には月替わりに、手作りの季節の置物を置き、来所者に楽しんでいただいている。	◎	○	○	事業所の1階には併設の小規模多機能型居宅介護があり、その事務所にいる職員が対応している。表からガラス窓越しに建物の中の様子が見え、地域住民が声をかけやすい雰囲気になっている。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	常時、季節のお花を飾り、つどいだより、ご家族と一緒にの写真等を飾り、すっきりと清潔で心温まる空間としている。	○	◎	○	リビングの南東の角は全面ガラスで大変見晴らしが良く、利用者が日に当たりながらソファでうとうとしている様子が見られた。共用空間は、清掃が行き届き、整理整頓されている。利用者が季節を感じられるよう、庭には季節の植物を植えており、リビングには近々お雛様を飾る予定である。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	全館を通し職員により、清掃は行き届き、清潔保持がなされている。					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節毎に、松飾り、ひな様、五月人形、七夕、クリスマスツリー等利用者と一緒で作成し、外部からもガラス張りに見て楽しんでいただいている。						○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	プライバシーの保てる居室、共用のフロアを自由に行き来しソファを都合良く動かす、気の合う同士で交流している。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	構造上直接見えなし。常に見守りの職員が控えている。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室には思い出の家族写真、孫・ひ孫さんからの手紙を飾って、暖かい雰囲気生活している。	○			居室は、全室南側に窓があり、とても明るく日当たりが良い。利用者は、家族の写真や手紙等を持ち込み、飾っている。日頃から地震に備え、高さのある家具や棚の上にものを置かないよう留意している。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内部は全てバリアフリーとなっているので、能力に応じて自由に移動している。エレベーターで自由に別の階を訪問できる。必ず見守りしている。			○	トイレ等センサーで照明がつく場所もあり、消灯しようとスイッチを探してしまふ利用者が多いため、自動で点灯・消灯する旨を記載した張り紙を掲示している。また、できるだけ利用者が自分で排泄できるよう、トイレには、前方にもたれられる手すりを取りつけている。		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室、共用のフロア等に危険を誘発するものは、置かないルールがある。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ほうき、生け花の花器、新聞、雑誌、お茶、湯飲み、メダカの水槽等は身近に置いている。趣味の琴もいつでも使えるようにホール内に起きている。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	弊害を理解した上で、施設が市街の中心地に有り交通が頻繁な交差点の角地のため、一步屋外に出ると危険がある。徘徊の利用者も入居しているため安全を優先し、玄関のみ、やむを得ず施錠しているが、利用者が希望すれば必ず職員同行で外出している。ご家族・地域の方たちにも説明し、了承していただいている。	×	×	△	以前、利用者が家族のふりをして他の利用者と一緒に外に出たことがあるため、玄関は施錠しており、来訪者がインターフォンで声をかけ、解錠してもらった仕組みになっている。建物内は施錠しておらず、利用者はエレベーターで他のユニットへ行くことも多い。外に出たい利用者がいれば、職員が同行して外出している。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族と話し合いのもと、建物の1階から3階まで自由に行動していただいている。地域の特性により、防犯と安全重視のため玄関施錠はご家族の理解を得ている。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	常に見守りし、心理的圧迫をもたらさないように、外出したいときはスムーズに電気錠を解錠して、閉塞感を感じないようにしている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者の情報は一人ひとり個別のファイルを作り、職員が常に見て把握できるようになっている。個人情報なので、鍵付き戸棚に入れている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	身体状態の変化や異常のサインを発見した時は、直ちに管理者に報告及び申し送りを行っている。個人記録、生活記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医と医療連携体制ができていて、主治医はすべての利用者の体調を把握している。いつでも相談指示を仰ぐことができる。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	職員は利用者の受診状況を把握し、ご希望の医療機関に受診できるように支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	ご本人・ご家族の意向を確認しながら、かかりつけ医と情報交換し、主治医、看護師、介護職員で、適切に医療と介護支援を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	ご家族の受診結果の報告、主治医からの報告等によりご家族の合意のもと情報共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時情報提供を必ず入院先病院に提出している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係者は非常に多忙であるので、こちらから積極的に情報を得るように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	毎朝、入所者の体調を連携病院にFAXで報告しているため、主治医及び病院関係者とは情報共有ができています。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	常勤の看護師1名及び非常勤の看護師1名、准看護師2名が配置されているので、介護職が相談できる環境になっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	医療連携体制が24時間備わっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎朝、利用者の状況を主治医に報告。それに対し医療の敏速な対応がなされている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	病院からの現在服用中の薬剤情報を個人ファイルに挿入しているため、いつでも確認できる。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬に関する3回以上の厳重な確認、飲み忘れ、誤薬防止の徹底。ヒヤリハット記録の徹底と検証を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝のショートミーティングで日常的に確認を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	毎朝FAXで主治医への情報提供及び大事なことはご家族に連絡している。				

愛媛県グループホームつどい

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時に重度化した場合の対応、看取り介護の指針を話し合い、状態の変化に応じてご家族の意向確認をしている。	/	/	/	入居時に利用者や家族の希望を聞き取り、職員が看取りに関する指針を説明している。医療機関に移る利用者もいるが、希望があれば事業所で最期を看取っている。利用者の状態の変化に応じ、利用者や家族のほか、利用者の主治医でもある法人代表者も含めて何度も検討を重ねている。容体が急変した場合には、代表者がすぐに駆け付けてくれるため、職員も安心して支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	個別の事例ごとにご本人、ご家族、主治医、看護職員、介護職員が話し合い方針を共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	医療連携事業所なので、看取り介護はあること、心構え等を普段から、職員に教育している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所時に看取りを行っていること。主治医の判断で入院治療して、快復が見込まれる方には、入院の選択がある事など説明と同意がきている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療連携体制、看取り介護体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	普段からご家族と相談しやすい、話しやすい関係を保ち、キーパーソンを中心に話し合いを行い、家族間の意見の食い違いのあるときは、あせらず、みんなが納得できる方法を一緒に考えている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症対策について、定期的に所内研修、所外研修を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	実技研修を行い、発生時の対応の仕方を、ロールプレイで訓練している。感染予防グッズのセットを常備している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政から感染症情報がメールで来る。保健所からの情報は連携病院から流してくれるので全職員が周知している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況を敏感にとらえ、職員に自覚を促し、玄関に掲示して来所者に注意とうがい、手指消毒の徹底。感染の疑いのある方への入所厳禁としている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	事業所内(玄関、トイレ、キッチン、各居室、洗面所等)にすり込み式手指消毒剤とマスクを常備し、来訪者、職員、利用者の清潔保持徹底を行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族との連絡を詳細に行い、ご家族と職員が同じ方針でご本人を支えていく努力をし、ご家族と円満な関係を築いている。進んで食事介助をしてくださるご家族もいる。	/	/	/	イベントを開催する際には、家族に案内し、参加してもらうようにしているが、家族アンケートの評価が低く、案内されていないと感じている家族もいるため、今後はイベント案内の方法を工夫する等、すべての家族に周知できることを期待したい。職員は家族への丁寧な報告を心がけており、家族からの意見や外部評価での提案等をもとに「つどいだより」を作成し、請求書送付時に同封しているほか、電話連絡も行っている。事業所の運営上の事柄や出来事の報告について、家族アンケートの評価は低いですが、職員の入職は「つどいだより」に掲載し、機器の導入は家族の来訪時や請求書送付時に文書を同封する等、家族に伝わるよう努めている。家族からの様々な要望や苦情に、管理者は真摯に向き合い、丁寧に対応している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族来訪時は日々の生活状況の報告、利用者と一緒にお茶したり、居室で自由に寛いでいただいている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事等の連絡をして、自由に参加し、面会時ゲームをしていると参加され、ご利用者と一緒に茶楽を楽しまれている。	x	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	疎遠になっていたり、県外に居住しているご家族にも少なくとも月1回は、状態報告と、つどいだより、直近の献立表、運営推進会議録等を送付。また電話連絡にて、気づきの報告やご家族のご意向を伺っている。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	先ず、ご家族のご事情、ご意向をお伺いしてから、事業所からの報告を行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご利用者とご家族の対面時の状況を見て、良い関係構築ができるように協力している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	つどいだよりで新入職員紹介、浴室のリフト導入など来訪時、請求書郵送時に文書で報告するなどしている。	x	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	行事後、ご家族を交えた話し合いをしている。来訪時顔見知りとなった家族同士が交流の場としている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時に高齢者に起こりうるリスクの説明を行い、同意を得ている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	気軽に来訪していただき職員とのコミュニケーションが取れていて、気がかりなこと、相談等は気軽に職員・管理者と話している。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に契約の内容、重要事項説明、リスク説明、重度化した場合の指針等を説明し、同意を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居事例はないが、契約書にて契約解除過程の同意を得ている。退去後のフォローアップができる体制にある。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、同意を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	開設前から、法人理事とGH管理者が地域の1軒1軒を訪問し、事業所の説明をし、理解を得ている。	/	○	/	事業所周辺には民家が少ないが、数名の地域住民に運営推進会議や避難訓練に参加してもらっている。地域の婦人会の方が定期的にお茶の道具を持って来訪し、利用者とのお茶会を開催している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	運営推進会議、地域の行事、事業所の防災訓練等の参加により、顔見知りとなり、ご近所さんとしての交流がある。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域的に一般家庭は少ないが、利用者、職員とは気軽に挨拶をし、利用者に声をかけてくれる。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	ホームの音楽に引かれて顔を出してくださったり、アサギマダラという渡りチョウを見せに来てくださったり、気軽に交流し、何かあれば駆けつけてくれる意思疎通がある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	タケノコ、キュウリ、大根などたくさん手に入ったからと、気軽に持ってきてくださる。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域の婦人会や、民舞愛好会などに働きかけると、定期的にボランティアとして、民舞、盆踊り、お茶会などに協力して下さり、手作りお菓子を持ってきてくださったりする。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域の人がさつまいもの苗や、トマトの苗を持ってきてくださり、食べてるお米を作っているお百姓さんが新米をもってきてくださったり、地産池消とか顔の見える地域資源に支えられている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	ホームだよりをお配りしたり、イベントのご案内をしている。美容室から定期的に出張散髪に来てくださっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	、毎回利用者ご家族、地域の人、民生委員、市役所職員等の参加がある。	○	/	◎	運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、地域住民等の参加を得て開催している。参加者からの発言や提案が多く、会話が弾み、茶話会のような雰囲気である。会議では、評価への取組み状況等を報告しており、前回の外部評価後に開催した運営推進会議の参加者からの提案を受け、事業所の様子を地域のケーブルテレビで紹介する企画が上がり、実現することができた。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	◎	利用状況、活動状況、外部評価への取組み状況について報告している。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	報告の後は必ず、意見交換会を行い自由に発言していただき、貴重な意見をいただき、サービス向上に活かしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	2～3週間前をメドに日程の連絡をし合って、会議の日時を決めている。メンバーが参加しやすいように配慮している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	自由に閲覧できるように設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	職員の名札の裏側に貼付し、ホールの玄関及び各所に掲示し、毎朝のミーティングの後に全員で唱和し、理念が職員全体に行き渡っている。理念に基づき、ご利用者の生きてきた歴史を尊重しつつ、寄り添う介護に努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関ホール、ホーム内に理念を掲示。毎回ご家族地域の方々に送付するつどいだよりの下欄に理念を記載して確認していただいている。	/	△	◎	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人全体の定期的研修会、毎月の所内研修会、職員の力量に応じた外部研修会に参加する等取り組んでいる。	/	/	/	年度始めに1年間の研修計画を作成し、毎月の職員会議の後に研修を実施している。母体法人全体での合同研修も年2~3回行っている。法人代表者は利用者の主治医であり、頻回に事業所に来ているため、日頃から職員と交流しており、相談しやすい関係を築いている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎年度初めに、1年間の研修計画を作成し、全ての職員のスキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、個々の努力や実績、勤務状況を把握し、個人的事情や意見を理解して、職場環境・条件の整備、向上に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域のグループホーム交流会、ケアマネ交流会に参加して、研修、防災、防犯、救急訓練等、また情報交換等を行っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員が代表者に相談や話し合いがしやすいように、いつでも受け入れ体制が有る。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	高齢者虐待防止法について定期的に学び、虐待や不適切なケアについて理解している。	/	/	/	2か月に1回運営推進会議の後に虐待や身体拘束の研修を実施する等、職員が研修を受ける機会を多く設けている。職員の不適切な言葉遣いを見つけた際には、管理者が何故その言葉を遣ってはいけないのか、しっかりと理由を説明している。家族にも車椅子の安全ベルトやベッドのサイドレール等が身体拘束になることを説明し、理解してもらえるよう努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	管理者は、職員のケアが一步間違えば虐待になることを、敏感にとらえ、職員と日々のケアについて振り返りと話し合いをしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	普段から職員に報告、連絡、相談の徹底を行い、見ないふり、気づかないふりは絶対してはならないと教育している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員が疲労やストレスを相談しやすい環境作りに努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束についての所内研修会を実施、学習して理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	業務を優先して、利用者の自由を束縛すること、例えば居室ドアに施錠、ベッドの4点柵などは拘束であり、絶対してはならないなど、話し合いで確認している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入所時に拘束しないケアの取り組み及びリスクの説明をして理解と同意を得ている。	/	/	/	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	現在、当事業所での対応はないが、管理者、介護支援専門員等は研修を受け理解している。職員も所内研修において学習している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	事例はないが、相談にのる体制はできている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	事例はないが、連携体制はできている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時対応手順をホール、事務室に掲示し、職員は周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	医療連携の施設であり、併設病院と連携して、職員は定期的研修・訓練に参加している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットは必ず提出することが徹底している。定期的にヒヤリハット検討会を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ミーティングにて、個々の利用者の事例検討会にて検討し、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応のマニュアルを周知理解し、対応方法について検討会を行っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	特に事例はないが、苦情が寄せられた場合は手順どおりに対応ができるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	特に事例はないが、苦情が寄せられた場合は手順どおりに対応ができるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	苦情担当窓口を設置していることを、重要事項説明書に明記し、説明している。管理者・職員に気軽に話せる雰囲気作りをしている。			○	利用者が希望を言うことは少ないため、職員が声をかけ、少しでも聞き取るよう心がけている。家族の要望や苦情は、面会時等に寄せられることがあり、管理者が中心となって対応している。職員は気軽に管理者に相談することができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	苦情担当窓口を設置していることを、重要事項説明書に明記し、説明している。管理者・職員に気軽に話せる雰囲気作りをしている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	ご家族との話し合いの場で情報提供している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は医療連携の担当医でもあり、ほぼ毎日来所し、ご利用者、職員の状況を把握しており、気軽に会話している。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者は朝タのミーティング・定期的業務改善会議には必ず出席し、職員の意見を聞き、ご利用者本位を優先することを常に話し合い、自覚を促している。			○	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	評価項目を職員全体が周知し、常日頃より自己評価に参加している。	/	/	/	外部評価の評価結果や目標達成計画は、運営推進会議の参加者等に報告している。会議では、活発に意見交換を行い、事業所のサービス向上に活かしている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題を明らかにすることにより、年度目標として、取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し、その達成に向けて1年をかけて全体で取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議メンバー、全ての利用者のご家族には評価結果と目標達成計画を報告している。	△	◎	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画の実践は全職員が周知し、取り組みの進行中であり、成果を確認している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	対応マニュアルをいつでも閲覧できるように設置している。	/	/	/	地域の福祉避難所としての指定を受けているため、事業所内の倉庫には、多くの食料品等を備蓄している。避難訓練には地域住民にも参加してもらっている。また、市内の事業所の交流会でも、防災に関することをテーマに話し合っている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の防火訓練と同時に災害訓練を夜間、日中の時間帯を想定して行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的消防署の点検、及び職員がチェックリストに従って、確認と点検を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	年2回の防災訓練には必ず近隣からの参加が有り、利用者避難援助の役割を担ってくださっている。	x	◎	◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	地域のグループホーム交流会において、警察・消防・防災士の協力を得て、学習訓練を行い、医療機関との連携も確認している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	当事業所において認知症サポーター養成研修を開催し、全職員が認知症サポーターとなっていて、いつでも誰でも相談を受ける体制になっている。	/	/	/	地域住民から相談を受けている。市内の事業所の交流会に参加し、他の事業所や地域包括支援センター等と協働しながら、地域活動等を行っている。今後は気軽に立ち寄れるような認知症カフェの開催を目標としている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	随時、相談を受けることができる。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	実績は無いが、要請があれば事業所を活用していただくことはできます。今後認知症カフェなど企画する構想あり。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	認知症家族の会の見学、相談会の受け入れを行った。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域の人たちに当事業所の存在を知って、足を運んでいただけるように、ボランティア活動、イベント等をCAテレビニュースで啓発した。隔月に行う今治市グループホーム交流会にて他事業所、包括、医療機関、消防署、警察、在宅介護研修センター等参加される関係機関と交流、情報共有し、研修や地域活動を行って行く。	/	/	○	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和2年2月13日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 17名
地域アンケート回答数	4名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3890200334
事業所名 (ユニット名)	グループホームつどい 3階
記入者(管理者) 氏名	村上 東洋子
自己評価作成日	令和1/度12/24

<p>【事業所理念】 一人ひとりの今までの歩みを大切にし 一人ひとりの「今」「この時」に寄り添います。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ① 利用者個別のモニタリング表を新規に作成する。各介護職員が、その月の担当利用者のモニタリングを月前半・後半2回記載、全職員が周知、共有する。計画作成者を中心に意見をまとめ、必要時に計画変更を行う。また3～4ヶ月毎の介護計画更新に反映して、ケアの向上を図る。①その結果。全職員がケアプランを読み実践の効果を評価として、記録し、次のケアプランにつなげることが出来た。 ②月初に請求書を送付するときに、つどいより、運営推進会議議事録を同封して報告。つどいよりには職員の移動等のニュースも記載して、ご家族にも周知していただく。②その結果。職員の移動のニュースが分かりやすくなったと、ご家族から好評だった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 市内中心部にある事業所は交差点の角に位置している。大きな窓から日が差し込みリビングは、冬場でも天気の良い日にはかなり暖かく、ソファでうとうとする利用者も多い。リビングの窓際には季節ごとにクリスマスツリーやお雛様を飾り、利用者だけでなく通行人の目も楽しませている。母体の医療機関が移転した跡地に事業所を新設してから5年以上経過しているが、掃除や管理が行き届き、衛生的で快適な空間になっている。利用者の居室には、日当たりを考慮し、全室南側に窓がつけられている。職員の離職も少なく、利用者にとって馴染みのある職員が、利用者一人ひとりに丁寧に穏やかに声かけをしている様子が印象的な事業所である。</p>
---	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	職員と利用者の会話を大切に、傾聴に努めている。	○	/	◎	代表者が方針に掲げている「とろとろに優しく」を職員全員が心がけ、職員は利用者のペースに合わせてゆっくりと話を聞き、何があっても利用者を受け入れる精神で利用者の希望の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	本人にとって、一番幸せな状態はどうかと検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族、知人の来訪時は必ず、ご本人の思いを話し合う。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	心身の情報シートを記録し、全職員が共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	毎朝の朝会で本人の思いを共有、修正している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時の詳細な聞き取りと、入所生活を始めて発見する。	/	/	◎	入居時に利用者や家族、主治医等から、これまでの暮らし方を聞き取っている。職員は「その人の歩んできた道を知る」という思いで情報収集しており、琴や華道といった利用者の特技等を聞き出している。入居後の日々の支援の中で利用者から得られる新しい情報も多く、「私の姿と気持ちのシート」に追記している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	詳細な観察、利用者との交流から把握し、職員で情報共有を行っている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	利用者との交流を通して把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	利用者との交流と語り家族の情報により、職員間で話し合い模索している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	業務優先ではなく、利用者本位のケアを優先している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	朝会で、職員が情報提供し、本人の視点で検討している。	/	/	○	職員一人ひとりが収集した情報や気づきは、朝会の申し送り時や月1回のミーティングで共有し、検討している。参加できない職員の意見は事前に確認している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	毎日の朝会、月一のミーティングにて検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアチェック表・ケアプランで課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人と会話して、思いや意向を反映するように努力している。				職員は利用者との会話を通して思いや意向を聞き取り、事例検討会で検討し、介護計画を作成している。	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	事例検討会にて今必要な事例をあげ、介護計画に反映。	○		○		
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	重度であっても、他利用者と同じ環境で、共に生活出来るように計画している。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地域のボランティアによるレクや地方祭参加の協力の内容。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	目標、内容が共有できるように、個人生活記録に密着挿入。			◎	月2回モニタリングを実施しており、職員は利用者一人ひとりの介護計画の内容を十分把握できている。利用者の担当職員が、介護計画に沿ってケアが実践できたかどうか、1項目ごとに丁寧に記録している。利用者の暮らしの様子は、個人生活記録に記録している。職員の気づきやアイデアも個別に記録し、ミーティング等で共有している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	各担当の利用者のケアの実践の結果を記録と評価を行い、全職員が共有し支援につなげている。			○		
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個人生活記録に時系列で状況、話し言葉等記録。			○		
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別の心身の情報シートに、職員の気づきや工夫、アイデア等を記録している。			○		
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3ヶ月～4ヶ月で定期的に見直しをしている。			◎	介護計画は3～4か月ごとに見直し、月2回モニタリングを実施している。利用者の状態に変化が生じた場合は、家族や職員等で話し合い、現状に即した計画を作成している。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	職員のモニタリング記録を参考に月中旬と月末をMDに現状確認を行っている。			◎		
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	家族等、職員で話し合い、現状に即した介護計画を作成。			○		
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎朝のショートミーティングで緊急案件を話し合っている。			◎	毎月職員会議を開催し、課題を解決している。緊急案件は、毎朝のミーティングで話し合っている。会議に参加できなかった職員は、議事録で内容を把握し、確認したことが分かるようサインしている。サインは後日管理者がチェックし、確認していない職員には声をかけている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	月1回の業務改善会議で業務連絡、意見交換、事例検討を全員が発言できるようにしている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	10日前に会議の通知を発表し、出欠確認。欠席者は事前に意見提出している。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議記録を全員が把握し確認サインを取っている。			◎		
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	業務日誌、申し送りノートで共有している。			◎	職員は、出勤時に申し送りノートや業務日誌、家族連絡簿を確認し、情報を共有している。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	出勤時に、生活記録・個人記録・申し送りノート・業務日誌・家族連絡簿を読み、全職員が把握出来るようにしている。	○				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者が「その日したいこと」表現できない場合は、職員が誘導したり、推察している。	/	/	/	レクリエーションやお菓子バイキング等、職員は利用者が選択する機会を確保している。訪問調査日には、利用者のペースに合わせて選んでもらっている様子が窺えた。職員は利用者の興味のある話題を提供し、生き生きとした言動や表情を引き出している。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レクタイムでしたいこと、フロアで寛ぐ場所の選定、お菓子バイキング等自己決定をしていたい。	/	/	○		
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	職員は日々の生活の日課において働きかけ、誘導し、納得して暮らせるように、言動を工夫したり、職員間で話し合っ支援するよう努力している。	/	/	/		
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	利用者の今までの生活習慣を尊重し、利用者のペースを優先している。	/	/	/		
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者の興味を持っていること、輝いていた過去の話などを引き出して楽しく会話している。	/	/	◎		
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	利用者の反応をキャッチしたら、職員全員で共有している。	/	/	/		
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	否定語は使わない。傾聴と共感を学び、実践している。	/	○	○	◎	プライバシー保護等に関する研修を受ける機会が多く、職員が利用者として過ごしている様子からも職員の意識の高さが窺えた。入浴を拒否する利用者に対し、「声かけが強くなってしまったことがあった」といった職員の反省が聞かれたため、そのような場合には他の職員と交代したり、時間を空いて対応したりする等の工夫をしている。利用者の居室に入室する際には、職員はノックや声かけを行い、利用者の許可を得ている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	プライドを尊重し、さりげない介護を心がけている。	/	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	マンツーマンで入浴介助、排せつ介助を行っている。	/	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室はプライバシーの空間であることを配慮している。	/	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報保護について学習し、常に実践している。	/	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	生け花の生け方、畑の耕し方など、それぞれ得意な利用者に教えてもらって実践。必ず、「いい物ができて、ありがとう！」と感謝を表している。	/	/	/	利用者同士のトラブルは少なく、穏やかに過ごしている。職員との相性の悪さが感じられる場合には、対応する職員を交代する等配慮している。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合っ暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	それぞれが自分に出来る役割を持ち、役立つ喜びがあることを理解している。	/	/	/		
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	現在、利用者同士は和やかに家庭的な生活をしている。フロアでの座る位置を配慮して、話が弾む様になっている。	/	/	◎		
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	被害妄想によるトラブルが起きると、両方が傷つかないように、別々にお話しして、気持ち収まるように努力している。	/	/	/		

愛媛県グループホームつどい

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	情報共有している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご近所・知人らが面会に来られた時は、過去の楽しかった話などお聞きしている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	ドライブで昔勤めていた会社を外から眺めたり、自宅周辺の馴染みの友人とお話する機会を努めて作っている。ご家族が積極的に馴染みの喫茶店や親戚に連れて行ってくださることもある。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	ゆっくり話せるように、居室にご案内、お茶の接待をしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	利用者の希望を優先することを心がけている。重度でも車いすで周辺散歩をしている。猛暑、インフルエンザ流行等で外出を控えることもある。	×	×	○	現在、季節的に感染症が心配で外出を控えているが、日頃から近くの公園やお寺に出かけている。事業所の1階にある庭では、トマトやサツマイモを栽培しており、庭へ畑の様子を見に行くことは利用者の日光浴や気分転換の機会にもなっている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	◎	地区の文化祭、弘法大師降誕祭に招待され、地方祭のお神輿を見物するなど、地域の協力で外出支援をしている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	リクライニング車いすで、周辺散歩、お花見など行っている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	地域や幼稚園からのお祭りのご招待を受けたり、季節の観梅、観桜、もみじ狩りなどご家族とともに楽しんでいる。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員全員が認知症サポーター養成講座を受講済、個々の周辺症状の原因と対策の話し合いをしている。				職員は見守ることを大切に支援しており、できることは利用者にしてもらう心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	認知症の特徴、高齢者リスクを学び理解し、生活リハビリで実践している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者個々の「できること、できそうなこと」を職員間で共有し誘導と見守りを行っている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	一人ひとりの今までの歩みを大切にし、持てる潜在能力で、野菜切り、豆むぎ、メダカのえさやり、畑耕しなどそれぞれができることを楽しんでいる。				利用者は、事業所の1階にある庭で収穫した野菜の下ごしらえをしたり、職員が企画したレクリエーションを楽しんだりしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	要介護4・5のご利用者も毎日、日中はフロアで他利用者・職員と交流し一緒に楽しく過ごしている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	◎	弘法大師生誕祭に招待をうけ、車いすや歩行介助で会堂に行き、稚児と交流し、甘茶をいただいた。地方祭では玄関まで出て、お神輿をお迎えた。				

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	朝は必ず、今日着るものを相談し、寝衣から普段着に着替え、必ず整容している。				利用者の衣服に乱れ等があれば、職員がさりげなくカバーしている。利用者全員が季節に応じた好みの服装をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	職員は、利用者の身だしなみに関心を持ち、褒めたり、助言をして、ご本人が満足する身だしなみを保つ支援をしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	ご家族と協力して、おしゃれな服装をしていただき、必ず、賞賛している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出用のジャケット、帽子、靴等ご家族に協力していただいて用意している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	常にきれいで居るように援助している。ご家族や見学者がいつ来られても、清潔で身だしなみが整っている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	定期的に出張美容に来てくれるのを、楽しみにしている。希望の店にご家族が同行する事もある。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	職員は毎朝髪型や服装の点検をし、整容に努めている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事前の手洗い、嚥下体操、献立発表、食事の見守りと介助、服薬援助、食後の口腔ケアまで確実にやっている。				1階にある小規模多機能型居宅介護の調理師が、季節を感じる食材を取り入れながら事業所の献立も考え、ユニットごとに職員が交代で調理している。利用者は、食材の買い物や調理の下ごしらえ等を職員と一緒にやっている。茶碗や湯呑み等は、利用者が持ち込んだものや事業所で用意したものを使用している。職員は利用者と一緒に食事を摂っておらず、利用者の横に座って声をかけながら介助を行っている。利用者が楽しく食事を摂れるよう、食前には口腔ケア体操を実施している。職員会議の中で食事に関して話し合っているほか、定期的に栄養士に献立を確認してもらい、バランスの良い食事を提供している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	毎日ではないが、食材の買い物に同行、食材切り、皮むぎ、後片付け等、利用者とともにやっている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	味付け、盛り付けを相談すると、いきいきした表情になる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	肉が食べられない人、米飯が嫌いな人など、それぞれ代替えの献立を用意している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節のつくし、タケノコ、そらまめ、栗、土用うなぎ、いもたき等々の食材と、節気毎のお雑煮、巻き寿司、柏餅、おはぎ等々の献立を提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	本日の献立の盛り付けを見ていただいてから、食べやすいように工夫して、食べていただいている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	茶碗や湯飲み等は、ご本人様が好みの物をもってこられたり、希望によりの施設の物を使用したり、選択に任せている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	○	食事介助の必要な利用者や見守り声かけ等サポートする職員は常時傍に一緒に食べる時間のゆとりはない。配膳前に職員は全員が味見をして、話題作りをしながら食事をさせて頂いている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	フロアの一角のオープンキッチンで調理しているので、においや調理の状況が見え、食事前から食事の話題が出ている。	○		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養士がバランスを考慮して、献立を作り、毎食の摂取量を観察記録して、管理している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事摂取困難な、利用者にはムース、ゼリー、とろみ等で工夫しジュース、栄養補助食品等で低栄養、脱水の防止をしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	月1回のミーティングで、話し合いをしている。献立表及び提供している料理の写真を必ず理事会にメールし、ご意見を伺っている。バランスの取れた美味しい食事提供の方針。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	職員はキッチンに入る直前に薬用ソープで手洗いし、すり込み式手指消毒剤で消毒し、専用エプロンを着ける。食材の管理を厳重にし、直接口に入れる物はグローブ着用している。ご利用者の手洗い、手指消毒も厳重に行っている。				

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	歯科医から口腔ケアの研修を受け、重要性を認識している。				利用者の居室と共用スペースの両方に洗面台があり、利用者の状態に合わせて職員が声かけを行い、誘導して口腔ケアをしている。口腔ケアを行う際には、職員が利用者の口腔内をチェックし、必要に応じて歯科受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時の観察によりある程度把握している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	法人全体で定期的に歯科医の研修を受け、口腔ケアの用具なども使用して支援している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夜間は義歯洗浄剤に浸け、毎朝洗浄して使用している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食前に口腔体操、食後に口腔ケアを励行している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	口腔内のトラブル、義歯の不具合を発見すると、主治医とご家族に連絡し、歯科受診をしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の自立を尊重して、自主的にトイレに行くことを基本としている。				必要に応じて職員会議で利用者の排泄ケアの検討をしており、日中は普通サイズのパッドをして過ごし、夜間のみ大き目サイズに変更する等の工夫もしている。紙パンツやパッド等は、衛生面から小まめに交換しているが、利用者や家族の費用負担が大きくなりすぎないように配慮している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	ミーティングで学習し、ほぼ理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個人の排尿排便について回数、性状等を詳細に記録して、共有している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	個々の状況によるが、失禁してしまったという意識を軽減するために、パット、紙パンツを使用して、安心してもらった場合もある。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	現在、排泄困難の事例はないが、事例が出たときに備え、意識を持ちたい。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	定期的に誘導の必要な人には、早めの声かけや誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	緊急時を除き、必要な場合はご本人、ご家族と話し合っており、どのような物を、どの時間帯に使うか相談して決めている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	個人の状況により、適時使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	野菜、食物繊維をとり入れた献立の工夫をしている。毎日のリハビリ体操、食前の口腔体操と一緒に腹部マッサージを、行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	最低週2回は入浴できるように、計画しているが、ご利用者のご気分、ご希望、体調により、融通、変更している。	◎		○	2階のユニットは一般浴槽、3階のユニットはリフトつき浴槽になっており、利用者の状態に合わせて使い分けている。利用者が週2回入浴できるよう声かけを行い、入浴を拒否した場合には、時間や日を変えたり、対応する職員を交代したりしている。季節に応じて菖蒲湯や柚子湯等を楽しんでいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	一人ずつ見守りのもと、ゆっくり入浴している。季節により、ゆず湯、しょうぶ湯などバラエティーを楽しんでいる。自力で立ち上がれない方にはリフトでゆっくり湯に浸かっている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	安全のため、マンツーマンの介助で入浴しているが、本人が自力でできることははしていたり、できないことを援助している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声かけの工夫、時間の工夫をして、どのようにしたら入浴してくれるか、情報を共有している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴直前にバイタルチェックと体調を確認している。入浴中は全身の皮膚状態を観察、異状時は看護師に報告、対処している。入浴後の着衣、水分摂取まで担当している。				

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	睡眠時の様子を生活記録に記載し、職員全員が共有している。	/	/	/	職員はできるだけ睡眠導入剤等に頼らないよう支援しており、現在、服用している利用者はいない。利用者が深夜に目覚めてしまった場合には、職員と一緒にお茶を飲んだり、軽食を食べたりしながら利用者のペースで過ごしてもらい、自然に眠りにつけるようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	基本的には生活リズムを作っているが、利用者によって、今までの長い生活リズムがあり、夜更かし、朝寝の習慣が身につけている人もいる。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	現在睡眠導入剤を服用している方はいない。不要不急な内服は避け、主治医と相談の上、状態観察しながら睡眠導入剤投与の選択もある。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個人個人の生活リズムに合わせ、お昼寝や休養の時間をとっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご本人のご希望に添えるように支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話中に傍で、本人の気持ちを、家族に伝えることもある。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	居室にて、施設の携帯電話を使っていたりしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご本人のご希望に従って対応している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	入所時の話し合いでご協力を依頼している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	基本的には個人的に所持していないが、自己管理を希望する利用者は所持している。職員はその意味を理解し共有している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	一定の金額を持っていただいて、コンビニ、スーパーマーケットにお買い物に行き、自力でお支払いできるよう援助している。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	近隣のコンビニ、スーパーマーケットに協力を依頼している。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご家族と相談の上、日常は所持せず、買い物の時には一定額を持ってもらっている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族と話し合い、利用者の状況に応じて、所持しない方が良いと判断されたり、所持することが精神的に安定する利用者は所持している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	基本的に預り金はなし。使用した分は請求書に記載。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ゆとりある程やかな生活に重きを置いているが、日舞のボランティアをCAテレビで紹介したり、左手のピアニストを法人にお招きして、演奏会に参加したり、サービスの多機能化を目指している。	◎	/	○ 利用者や家族の希望に沿えるよう、職員は柔軟に対応している。	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物横の道路際につどいファームという畑を作り、花木、実なる木、草花、野菜等を進行く人にも楽しんでいただき、近隣の方が、気軽に草花の苗や野菜を持参してくださっている。玄関には月替わりに、手作りの季節の置物を置き、来所者に楽しんでいただいている。	◎	○	○	事業所の1階には併設の小規模多機能型居宅介護があり、その事務所にいる職員が対応している。表からガラス窓越しに建物の中の様子が見え、地域住民が声をかけやすい雰囲気になっている。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	常時、季節のお花を飾り、つどいだより、ご家族と一緒に写真等を飾り、すっきりと清潔で心温まる空間としている。	○	◎	○	リビングの南東の角は全面ガラスで大変見晴らしが良く、利用者が日に当たりながらソファでうとうとしている様子が見られた。共用空間は、清掃が行き届き、整理整頓されている。利用者が季節を感じられるよう、庭には季節の植物を植えており、リビングには近々お雛様を飾る予定である。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	全館を通し職員により、清掃は行き届き、清潔保持がなされている。					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節毎に、松飾り、ひな様、五月人形、七夕、クリスマスツリー等利用者と一緒で作成し、外部からもガラス張りに見て楽しんでいただいている。						○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	プライバシーの保てる居室、共用のフロアを自由に歩き来しソファを都合良く動かす、気の合う同士で交流している。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	構造上直接見えなし。常に見守りの職員が控えている。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室には思い出の家族写真、孫・ひ孫さんからの手紙を飾って、暖かい雰囲気生活している。	○			居室は、全室南側に窓があり、とても明るく日当たりが良い。利用者は、家族の写真や手紙等を持ち込み、飾っている。日頃から地震に備え、高さのある家具や棚の上にものを置かないよう留意している。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内部は全てバリアフリーとなっているので、能力に応じて自由に移動している。エレベーターで自由に別の階を訪問できる。必ず見守りしている。				○		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室、共用のフロア等に危険を誘発するものは、置かないルールがある。					トイレ等センサーで照明がつく場所もあり、消灯しようとスイッチを探してしまふ利用者が多いため、自動で点灯・消灯する旨を記載した張り紙を掲示している。また、できるだけ利用者が自分で排泄できるよう、トイレには、前方にもたれられる手すりを取りつけている。	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ほうき、生け花の花瓶、新聞、雑誌、お茶、湯飲み、メダカの水槽等は身近に置いている。趣味の琴もいつでも使えるようにホール内に起きている。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	弊害を理解した上で、施設が市街の中心地に有り交通が頻繁な交差点の角地のため、一步屋外に出ると危険がある。徘徊の利用者も入居しているため安全を優先し、玄関のみ、やむを得ず施錠しているが、利用者が希望すれば必ず職員同行で外出している。ご家族・地域の方たちにも説明し、了承していただいている。	x	x	△	以前、利用者が家族のふりをして他の利用者と一緒に外に出たことがあるため、玄関は施錠しており、来訪者がインターフォンで声をかけ、解錠してもらった仕組みになっている。建物内は施錠しておらず、利用者はエレベーターで他のユニットへ行くことも多い。外に出たい利用者がいれば、職員が同行して外出している。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族と話し合いのもと、建物の1階から3階まで自由に行動していただいている。地域の特性により、防犯と安全重視のため玄関施錠はご家族の理解を得ている。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	常に見守りし、心理的圧迫をもたらさないように、外出したいときはスムーズに電気錠を解錠して、閉塞感を感じないようにしている。						

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者の情報は一人ひとり個別のファイルを作り、職員が常に見て把握できるようになっている。個人情報なので、鍵付き戸棚に入れている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	身体状態の変化や異常のサインを発見した時は、直ちに管理者に報告及び申し送りをしている。個人記録、生活記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医と医療連携体制ができていて、主治医はすべての利用者の体調を把握している。いつでも相談指示を仰ぐことができる。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	職員は利用者の受診状況を把握し、ご希望の医療機関を受診できるように支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	ご本人・ご家族の意向を確認しながら、かかりつけ医と情報交換し、主治医、看護師、介護職員で、適切に医療と介護支援を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	ご家族の受診結果の報告、主治医からの報告等によりご家族の合意のもと情報共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時情報提供を必ず入院先病院に提出している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係者は非常に多忙であるので、こちらから積極的に情報を得るように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	毎朝、入所者の体調を連携病院にFAXで報告しているため、主治医及び病院関係者とは情報共有ができています。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	常勤の看護師1名及び非常勤の看護師1名、准看護師2名が配置されているので、介護職が相談できる環境になっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	医療連携体制が24時間備わっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎朝、利用者の状況を主治医に報告。それに対し医療の敏速な対応がなされている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	病院からの現在服用中の薬剤情報を個人ファイルに挿入しているため、いつでも確認できる。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬に関する3回以上の厳重な確認、飲み忘れ、誤薬防止の徹底。ヒヤリハット記録の徹底と検証を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝のショートミーティングで日常的に確認を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	毎朝FAXで主治医への情報提供及び大事なことはご家族に連絡している。				

愛媛県グループホームつどい

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時に重度化した場合の対応、看取り介護の指針を話し合い、状態の変化に応じてご家族の意向確認をしている。	/	/	/	入居時に利用者や家族の希望を聞き取り、職員が看取りに関する指針を説明している。医療機関に移る利用者もいるが、希望があれば事業所で最期を看取っている。利用者の状態の変化に応じ、利用者や家族のほか、利用者の主治医でもある法人代表者も含めて何度も検討を重ねている。容体が急変した場合には、代表者がすぐに駆け付けてくれるため、職員も安心して支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	個別の事例ごとにご本人、ご家族、主治医、看護職員、介護職員が話し合い方針を共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	医療連携事業所なので、看取り介護はあること、心構え等を普段から、職員に教育している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所時に看取りを行っていること。主治医の判断で入院治療して、快復が見込まれる方には、入院の選択がある事など説明と同意がきている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療連携体制、看取り介護体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	普段からご家族と相談しやすい、話しやすい関係を保ち、キーパーソンを中心に話し合いを行い、家族間の意見の食い違いのあるときは、あせらず、みんなが納得できる方法を一緒に考えている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症対策について、定期的に所内研修、所外研修を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	実技研修を行い、発生時の対応の仕方を、ロールプレイで訓練している。感染予防グッズのセットを常備している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政から感染症情報がメールで来る。保健所からの情報は連携病院から流してくれるので全職員が周知している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況を敏感にとらえ、職員に自覚を促し、玄関に掲示して来所者に注意とうがい、手指消毒の徹底。感染の疑いのある方への入所厳禁としている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	事業所内(玄関、トイレ、キッチン、各居室、洗面所等)にすり込み式手指消毒剤とマスクを常備し、来訪者、職員、利用者の清潔保持徹底を行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族との連絡を詳細に行い、ご家族と職員が同じ方針でご本人を支えていく努力をし、ご家族と円満な関係を築いている。進んで食事介助をしてくださるご家族もいる。	/	/	/	イベントを開催する際には、家族に案内し、参加してもらおうようにしているが、家族アンケートの評価が低く、案内されていないと感じている家族もいるため、今後はイベント案内の方法を工夫する等、すべての家族に周知できることを期待したい。職員は家族への丁寧な報告を心がけており、家族からの意見や外部評価での提案等をもとに「つどいだより」を作成し、請求書送付時に同封しているほか、電話連絡も行っている。事業所の運営上の事柄や出来事の報告について、家族アンケートの評価は低いですが、職員の入職は「つどいだより」に掲載し、機器の導入は家族の来訪時や請求書送付時に文書を同封する等、家族に伝わるよう努めている。家族からの様々な要望や苦情に、管理者は真摯に向き合い、丁寧に対応している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族来訪時は日々の生活状況の報告、利用者と一緒にお茶したり、居室で自由に寛いでいただいている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事等の連絡をして、自由に参加し、面会時ゲームをしていると参加され、ご利用者と一緒に茶楽を楽しまれている。	x	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	疎遠になっていたり、県外に居住しているご家族にも少なくとも月1回は、状態報告と、つどいだより、直近の献立表、運営推進会議録等を送付。また電話連絡にて、気づきの報告やご家族のご意向を伺っている。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	先ず、ご家族のご事情、ご意向をお伺いしてから、事業所からの報告を行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご利用者とご家族の対面時の状況を見て、良い関係構築ができるように協力している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	つどいだよりで新入職員紹介、浴室のリフト導入など来訪時、請求書郵送時に文書で報告するなどしている。	x	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	行事後、ご家族を交えた話し合いをしている。来訪時顔見知りとなった家族同士が交流の場としている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時に高齢者に起こりうるリスクの説明を行い、同意を得ている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	気軽に来訪していただき職員とのコミュニケーションが取れていて、気がかりなこと、相談等は気軽に職員・管理者と話している。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に契約の内容、重要事項説明、リスク説明、重度化した場合の指針等を説明し、同意を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居事例はないが、契約書にて契約解除過程の同意を得ている。退去後のフォローアップができる体制にある。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、同意を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	開設前から、法人理事とGH管理者が地域の1軒1軒を訪問し、事業所の説明をし、理解を得ている。	/	○	/	事業所周辺には民家が少ないが、数名の地域住民に運営推進会議や避難訓練に参加してもらっている。地域の婦人会の方が定期的にお茶の道具を持って来訪し、利用者とのお茶会を開催している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	運営推進会議、地域の行事、事業所の防災訓練等の参加により、顔見知りとなり、ご近所さんとしての交流がある。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域的に一般家庭は少ないが、利用者、職員とは気軽に挨拶をし、利用者に声をかけてくれる。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	ホームの音楽に引かれて顔を出してくださったり、アサギマダラという渡りチョウを見せに来てくださったり、気軽に交流し、何かあれば駆けつけてくれる意思疎通がある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	タケノコ、キュウリ、大根などたくさん手に入ったからと、気軽に持ってきてくださる。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域の婦人会や、民舞愛好会などに働きかけると、定期的にボランティアとして、民舞、盆踊り、お茶会などに協力して下さり、手作りお菓子を持ってきてくださったりする。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域の人がさつまいもの苗や、トマトの苗を持ってきてくださり、食べてるお米を作っているお百姓さんが新米をもってきてくださったり、地産池消とか顔の見える地域資源に支えられている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	ホームだよりをお配りしたり、イベントのご案内をしている。美容室から定期的に出張散髪に来てくださっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	、毎回利用者ご家族、地域の人、民生委員、市役所職員等の参加がある。	○	/	◎	運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、地域住民等の参加を得て開催している。参加者からの発言や提案が多く、会話が弾み、茶話会のような雰囲気である。会議では、評価への取組み状況等を報告しており、前回の外部評価後に開催した運営推進会議の参加者からの提案を受け、事業所の様子を地域のケーブルテレビで紹介する企画が上がり、実現することができた。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	◎	利用状況、活動状況、外部評価への取組み状況について報告している。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	報告の後は必ず、意見交換会を行い自由に発言していただき、貴重な意見をいただき、サービス向上に活かしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	2～3週間前をメドに日程の連絡をし合って、会議の日時を決めている。メンバーが参加しやすいように配慮している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	自由に閲覧できるように設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	職員の名札の裏側に貼付し、ホールの玄関及び各所に掲示し、毎朝のミーティングの後に全員で唱和し、理念が職員全体に行き渡っている。理念に基づき、ご利用者の生きてきた歴史を尊重しつつ、寄り添う介護に努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関ホール、ホーム内に理念を掲示。毎回ご家族地域の方々に送付するつどいだよりの下欄に理念を記載して確認していただいている。	/	△	◎	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人全体の定期的研修会、毎月の所内研修会、職員の力量に応じた外部研修会に参加する等取り組んでいる。	/	/	/	年度始めに1年間の研修計画を作成し、毎月の職員会議の後に研修を実施している。母体法人全体での合同研修も年2~3回行っている。法人代表者は利用者の主治医であり、頻回に事業所に来ているため、日頃から職員と交流しており、相談しやすい関係を築いている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎年度初めに、1年間の研修計画を作成し、全ての職員のスキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、個々の努力や実績、勤務状況を把握し、個人的事情や意見を理解して、職場環境・条件の整備、向上に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域のグループホーム交流会、ケアマネ交流会に参加して、研修、防災、防犯、救急訓練等、また情報交換等を行っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員が代表者に相談や話し合いがしやすいように、いつでも受け入れ体制が有る。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	高齢者虐待防止法について定期的に学び、虐待や不適切なケアについて理解している。	/	/	/	2か月に1回運営推進会議の後に虐待や身体拘束の研修を実施する等、職員が研修を受ける機会を多く設けている。職員の不適切な言葉遣いを見つけた際には、管理者が何故その言葉を遣ってはいけないのか、しっかりと理由を説明している。家族にも車椅子の安全ベルトやベッドのサイドレール等が身体拘束になることを説明し、理解してもらえるよう努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	管理者は、職員のケアが一步間違えば虐待になることを、敏感にとらえ、職員と日々のケアについて振り返りと話し合いをしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	普段から職員に報告、連絡、相談の徹底を行い、見ないふり、気づかないふりは絶対してはならないと教育している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員が疲労やストレスを相談しやすい環境作りに努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束についての所内研修会を実施、学習して理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	業務を優先して、利用者の自由を束縛すること、例えば居室ドアに施錠、ベッドの4点柵などは拘束であり、絶対してはならないなど、話し合いで確認している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入所時に拘束しないケアの取り組み及びリスクの説明をして理解と同意を得ている。	/	/	/	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	現在、当事業所での適応はないが、管理者、介護支援専門員等は研修を受け理解している。職員も所内研修において学習している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	事例はないが、相談にのる体制はできている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	事例はないが、連携体制はできている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時対応手順をホール、事務室に掲示し、職員は周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	医療連携の施設であり、併設病院と連携して、職員は定期的研修・訓練に参加している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットは必ず提出することが徹底している。定期的にヒヤリハット検討会を行っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ミーティングにて、個々の利用者の事例検討会にて検討し、事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応のマニュアルを周知理解し、対応方法について検討会を行っている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	特に事例はないが、苦情が寄せられた場合は手順どおりに対応ができるようにしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	特に事例はないが、苦情が寄せられた場合は手順どおりに対応ができるようにしている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	苦情担当窓口を設置していることを、重要事項説明書に明記し、説明している。管理者・職員に気軽に話せる雰囲気作りをしている。	/	/	○	利用者が希望を言うことは少ないため、職員が声をかけ、少しでも聞き取るよう心がけている。家族の要望や苦情は、面会時等に寄せられることがあり、管理者が中心となって対応している。職員は気軽に管理者に相談することができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	苦情担当窓口を設置していることを、重要事項説明書に明記し、説明している。管理者・職員に気軽に話せる雰囲気作りをしている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	ご家族との話し合いの場で情報提供している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は医療連携の担当医でもあり、ほぼ毎日来所し、ご利用者、職員の状況を把握しており、気軽に会話している。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者は朝タのミーティング・定期的業務改善会議には必ず出席し、職員の意見を聞き、ご利用者本位を優先することを常に話し合い、自覚を促している。	/	/	○	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	評価項目を職員全体が周知し、常日頃より自己評価に参加している。				外部評価の評価結果や目標達成計画は、運営推進会議の参加者等に報告している。会議では、活発に意見交換を行い、事業所のサービス向上に活かしている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題を明らかにすることにより、年度目標として、取り組んでいる。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し、その達成に向けて1年をかけて全体で取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議メンバー、全ての利用者のご家族には評価結果と目標達成計画を報告している。	△	◎	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画の実践は全職員が周知し、取り組みの進行中であり、成果を確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアルをいつでも閲覧できるように設置している。				地域の福祉避難所としての指定を受けているため、事業所内の倉庫には、多くの食料品等を備蓄している。避難訓練には地域住民にも参加してもらっている。また、市内の事業所の交流会でも、防災に関することをテーマに話し合っている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の防火訓練と同時に災害訓練を夜間、日中の時間帯を想定して行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的消防署の点検、及び職員がチェックリストに従って、確認と点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	年2回の防災訓練には必ず近隣からの参加があり、利用者避難援助の役割を担ってくださっている。	x	◎	◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域のグループホーム交流会において、警察・消防・防災士の協力を得て、学習訓練を行い、医療機関との連携も確認している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	当事業所において認知症サポーター養成研修を開催し、全職員が認知症サポーターとなっていて、いつでも誰でも相談を受ける体制になっている。				地域住民から相談を受けている。市内の事業所の交流会に参加し、他の事業所や地域包括支援センター等と協働しながら、地域活動等を行っている。今後は気軽に立ち寄れるような認知症カフェの開催を目標としている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	随時、相談を受けることができる。		○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	実績は無いが、要請があれば事業所を活用していただくことはできます。今後認知症カフェなど企画する構想あり。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	認知症家族の会の見学、相談会の受け入れを行った。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域の人たちに当事業所の存在を知って、足を運んでいただけるように、ボランティア活動、イベント等をCAテレビニュースで啓発した。隔月に行う今治市グループホーム交流会にて他事業所、包括、医療機関、消防署、警察、在宅介護研修センター等参加される関係機関と交流、情報共有し、研修や地域活動を行って行く。			○	